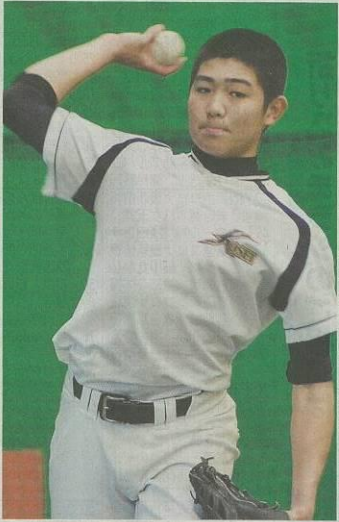


親子の夢 甲子園へ



室内練習場でキャッチボールをする八学光星1年の洗平歩人さん。父とは違い右投げだ。21日午後、八戸市美保野

八戸学院光星高校硬式野球部にこの春、特別な思いを抱えて入部した1年生投手がいる。洗平歩人さん(15)＝千葉県出身。夏の甲子園を目

光星・洗平投手(1年)

の前にした青森大会決勝で3年連続涙をのんだ投手、父・竜也さん(41)＝六戸町出身一の母校をあえて進学先に選んだ。「悲運のエース」と呼ばれ、プロでは短命に終わった父に誓う。「父の夢は自分かなえる。甲子園に連れて行きたい」

(松田啓志)

父に勧められ小学校3年 から野球を始めた。やがて所属チームの監督から、父、現役当時のユニホーム

同じ高校「自分かなえる」

も押し入れにひっそりと眠っていた。歩人さんは父の足跡に興味を抱き、インターネットの検索サイトで調べた。「昔日本大学選手権で活躍」ドラフトで中日入り。初めて父のすごさが分かった。

あるとき、動画サイトで高校時代の父を見つけた。1年から大黒柱として奮闘し、1994、96年、同じユニホームで、チームを青森大会決勝に導きながら、三たび敗れ去ったことを知った。「つらい出来事を振り返るんじゃない。家族は本人の心情をおもんばかり、過去に触れないよう歩人さんにお願い。でも歩人さんは憧れの



高校3年の夏、青森大会決勝で力投する父・竜也さん。3度目の夏も涙をのみ、悲運のエースと呼ばれた。1996年7月、青森市の県営球場

父悲運 3年連続県大会決勝で涙

染拡大のため、今年の夏の甲子園は中止に追い込まれた。身長180センチ、体重72キロ。公式戦の予定がない現在、歩人さんは体をもう一回り大きくしようと基礎体力づくりの時間を割く。有田選手が集まる強豪校では厳しい競争が予想される。父と過ごした時間が懐かしさを覚える。歩人さんは「練習して(高校時代の)父を超えたい。一緒に甲子園に行きたい」

が仲井宗基監督(50)は彼が八戸に来たのは運命。身長180センチ、体重72キロ。公式戦の予定がない現在、歩人さんは体をもう一回り大きくしようと基礎体力づくりの時間を割く。有田選手が集まる強豪校では厳しい競争が予想される。父と過ごした時間が懐かしさを覚える。歩人さんは「練習して(高校時代の)父を超えたい。一緒に甲子園に行きたい」

中学時代はほぼ毎日、1時間かけ自宅から練習グラウンドまでを車で送り迎えしてくれました。思い出せば、練習して(高校時代の)父を超えたい。一緒に甲子園に行きたい

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです